

2021年3月15日

長崎県知事 中村法道様

石木ダム建設に反対する川棚町民の会 代表 炭谷 猛
石木ダム建設に反対するみんなの会

呼び掛け人 中島康,茂吉隆典,山本伸裕,土森武友
長崎県民主医療機関連合会 会長 平野 友久
いしきを学ぶ会 代表 森下 浩史

付け替え道路工事現場への土砂搬入に抗議し、工事中止と住民との
対話を求める申し入れ書

先月、長崎県は石木ダム建設による県道の付け替え道路工事現場に大量の土砂搬入を行い、また高所から投げ落としました。川原地区住民らが抗議行動を行う目の前での行為であり、抗議者の身に危害を与えかねない、安全対策の欠片も見えない危険な行為です。また今月に入ってから土砂を搬入したり、盛り土をしたり、フェンスを設置したりしています。

このような乱暴な手法が今後も繰り返されるならば、流血の惨事が発生する可能性もあります。住民らが座り込みの抗議行動を行うのは、石木ダムの建設目的に住民を納得させるものがないからです。

私たちは、この土砂搬入に強く抗議します。

石木ダム建設の目的は失われています。目的の一つである川棚川の洪水防止については、河床掘削などの河川改修をすれば、過去最大の洪水も溢れずに流せます。これは2014年7月、貴職自身認めております。実際、その工事も現在進行中であり、工事が完成すれば、川棚町民も安心して生活することが出来るようになります。もう一つの目的である佐世保市への水道水の供給も、水需要は減少しており、新たにダムの水を引く必要はありません。佐世保市の喫緊の課題は漏水対策であって、ダムからの水の供給ではありません。

このような無駄なダム建設に長崎県は総事業費 538 億円（建設事業の総事業費 285 億円＋関連事業費（取水、導水、浄水等施設設備費）253 億円）もの費用税金を投入し、自然を破壊し、水没予定地住民の生活を奪い、私たちに、そこに存在するだけで湯水のように税金を浪費する負の遺産を押し付けようとしています。

貴職は3月県議会で「県としては反対住民との話し合いを模索し、検討を進めているところ」と答弁とした報道されています（3月2日、テレビ長崎）。

コロナ禍の折り、「不要」工事の代名詞ともいえる石木ダム事業にこれ以上の予算・人員を投入すべきではありません。

本気で「話し合いを模索」する気があるのなら、付け替え道路工事を即時中止し、川原地区住民らと対話を始められますよう求めます。

以上